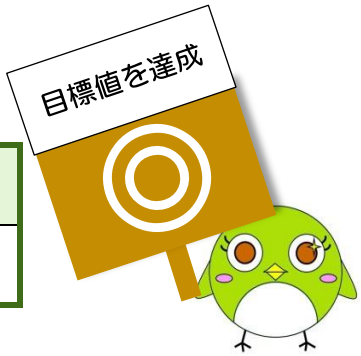
３．自然環境の保全

目標指標　西山の森林の CO_2 吸収量

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
１．３９６ｔ-CO_2以上	１．４３９ｔ-CO_2



（１）西山の保全・再生・活用

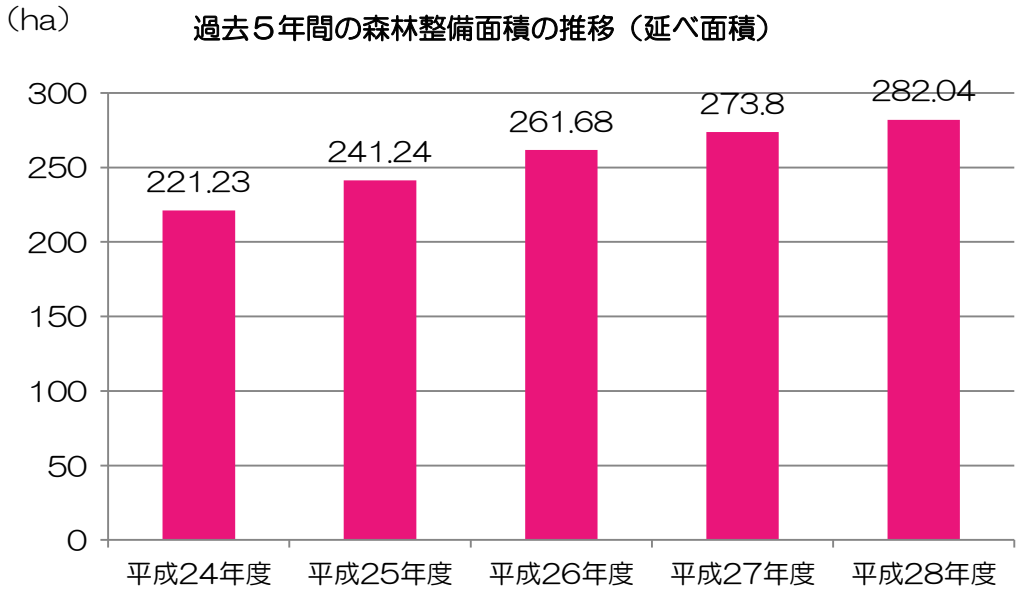
①西山の森林整備

森林整備面積（竹林含む）

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
延べ２８０ｈａ	延べ２８２ｈａ

森林整備とは、森が健全に育成し、地下水の保全などの機能を維持していくために行うものです。間伐と言って木を間引いたり、枝をはらったりして、木の成長を助けます。このような整備で、木が吸収する二酸化炭素の量が増え、地球温暖化対策にもつながっています。平成２８年度は８．２４ｈａの整備を実施し、延べ２８２．０４ｈａとなりました。

※間伐（かんばつ）…健全な森林育成のために樹木を間引くこと。



森林整備面積のうち利用間伐した面積

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
延べ１０ｈａ	延べ　１１ｈａ

西代里山公園管理棟の内装材
間伐材で作ったカフェトレー

長岡京市では、森林を整備して出た木材等を利用する「利用間伐」を進めています。平成２３年１１月には、「公共建築物等における長岡京市産材の利用促進に関する基本方針」を策定しました。

平成２８年度は、西代里山公園管理棟の内装材や開園記念コースター、山の日制定記念行事でのＤＩＹ原材料などに利用しました。

※利用間伐…間伐したその木材を利用すること。

②西山の生態系の保全

モニタリング 1000 里地調査の支援

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
調査項目４項目	調査項目４項目

環境省が実施するモニタリング 1000 里地調査に、ボランティアの皆さんが参加しています。この調査は、全国の多数の場所で統一した方法により、各種の調査を行うものです。長岡京市内では、西山をフィールドとして哺乳類、鳥類、チョウ類、植物相の４項目の調査を実施しています。継続的に調査をすることで、この区域に住む生物の保全につなげていきます。

③西山の有効活用

西山キャンプ場の有効活用

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
老朽化した付帯設備等の修繕と関係課等との活用方法の検討	簡易水洗トイレ３基設置 関係課等との活用方法の検討

平成２８年度は、簡易水洗トイレの便槽が破損し、使用不能となったため、以前使用していた汲み取り式トイレとともに撤去し、新たに簡易水洗トイレを３基設置しました。

西代里山公園との連携を踏まえた日帰り型施設への転換など、社会教育委員会議での提言を受け、関係課等と活用方法について検討を開始しました。

④森林組合の育成

森林組合の組織運営維持

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
組合員数１０４人	組合員数１０４人

西山の森林整備を進めるために、長岡京市森林組合の組織運営、森林整備活動、研修、イベント参画などの活動を事務局として支援しました。

（２）竹林の保全・再生・活用

①竹林の整備

竹林整備面積

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
延べ１６．１４ｈａ	延べ１７．０７ｈａ

西山の住宅地に接する部分の多くが竹林です。ブランドの長岡京のたけのこを産出する場所ですが、住宅地に近いため、放置されると通行を妨げ、森林に侵入して竹林が広がっていくこともあります。そのため、森林の整備とともに竹林の整備も行っています。今後も引き続き、平成２７年４月に改定した西山森林整備構想における最優先課題として竹林整備に取り組んでいきます。

②竹の利活用の調査研究

竹粉・竹チップの累計活用量

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
累計３６㎥	累計６４㎥

たけのこを特産物とし、多くの竹林を持つ乙訓の二市一町では、伐採された竹の処理方法が共通の課題です。

公共施設を管理する関係部署に、防草剤としての竹チップの活用を働きかけたところ、平成２８年度は西代里山公園、東第二浄水場、西山公園の３箇所（４２．３㎥）で竹チップが利用できました。

（３）環境にやさしい農業の推進

①低化学肥料農業等の推進

有機栽培に対する補助金の交付

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
３００千円／年	３００千円／年

特産品の花菜の圃場（ほじょう）に使用する有機栽培のためのたい肥購入に補助金を交付しています。現在、長岡京市の２７戸の農家で栽培している花菜は、平成２年に「京のブランド産品」の指定を受けるとともに、平成１７年から「京都こだわり生産」の認証を受けています。

花菜（はなな）

②市民農園の充実

シルバー農園の運営

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
利用者数　１８１人 （最大定員）	利用者数　１６９人

長岡京市では、高齢者の生きがいづくりのために６０歳以上の方を対象とした「シルバー農園」を運営しています。

市内３か所の農園で、１６９人の方が利用されています。農地の確保が難しい現状もありますが、高齢者の生きがいづくりのため運営を行っていきます。

③地産地消の推進

地産地消推進協議会の開催による取組みの充実

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
学校給食納品額　８８８万円以上	学校給食納品額　９６２万円

長岡京市の全１０校の小学校すべてで地元産の野菜を給食に使用しています。

平成２８年度は、全給食費の約４．１％分が地元での野菜購入費になりました。

特産のナスやたけのこ、花菜なども提供されており、子どもの食育の面からも効果をあげています。

④農地の保全

農地パトロールの実施及び農地銀行制度の活用

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
遊休農地１２．０ｈａ以下	遊休農地１０．８ｈａ

長岡京市の農地は、平成２８年度末現在で２５５．8ha あり、そのうち１０．8ha（４．２２%）が遊休農地となっています。

遊休農地とは、農作物を収穫するために使われていない農地のことです。農地の適正な管理やまちなかに多くの農地がある貴重な景観の保全の観点からも、今後も農地パトロールの実施や農地銀行制度の周知を図っていきます。（※農地銀行制度…農家間で農地の貸し借りを円滑に行うための本市独自の制度。農業委員会が仲介を行う。）

（４）水辺環境の保全・再生

①河川・水路の維持管理

河川清掃支援

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
参加者数 ２６０人以上	参加者数 ２５１人

河川や水路などの清掃を行う個人や団体にごみ袋を交付しています。平成２８年度は２５１人が河川清掃に参加されました。

近年、集中豪雨などにより水路などが氾濫する危険もあります。地域の方による日頃の清掃活動やポイ捨てをしないなどの行動がまちを守ることにつながるため、今後も引き続き支援を行います。

②ホタルの保護と育成

ホタルの人工飼育、保護育成の市民啓発・小泉川流域での河川清掃

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
ホタルの生息地域　西代橋～菩提寺橋まで拡大・観賞のタベ、捕獲防止パトロールの実施	ホタルの生息地域　西代橋～菩提寺橋まで拡大・観賞のタベ、捕獲防止パトロールの実施

長岡京市西部を南北に流れる小泉川には、ゲンジボタルやヘイケボタルが生息しています。特にゲンジボタルは、水がきれいなところでしか生息しないとされており、市内でも数が減少してきています。そのため、長岡京市では「長岡京市ゲンジボタルを育てる会」とともに、河川清掃や卵からの人工飼育を行って、ホタルの保護と育成に取り組んでいます。

4．快適な都市環境づくり

目標指標　住民一人あたりの公園面積

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
住民一人あたりの公園面積 ２．９４㎡	住民一人あたりの公園面積 ３．２１㎡

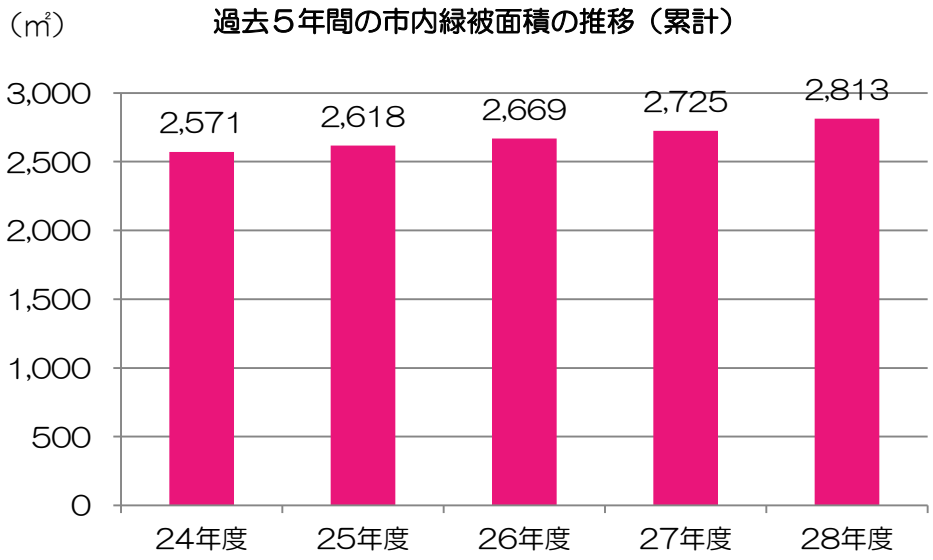
（１）身近な緑の保全・創出

①まちなかの緑の創出

まちなかの公共空地等に植栽

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
まちなかに創出した緑被面積 累計　２．８００㎡	まちなかに創出した緑被面積 累計　２．８１３㎡

緑の基本計画に基づき、まちなかに緑を増やし、魅力あるまちづくりを行うとともに、生物にとっても住みやすい環境づくりを行っています。



緑の講習会参加数・グリーンカーテンコンテスト等への応募数

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
参加・応募者数　３４５人	参加・応募者数　４９１人

住宅が多い長岡京市のまちなかでは、緑は貴重な資源です。

長岡京市では、緑ゆたかなまちづくりを推進するため、（公財）長岡京市緑の協会に委託し、緑の講習会やグリーンカーテンコンテストを実施しています。

平成２８年度は緑の講習会を２０回開催しました。またグリーンカーテン講習会には２３名の参加があり、グリーンカーテンコンテストには家庭部門（２５件）、団体部門（１２件）、合計で３７件の応募がありました。

緑の講習会のようす

②公園緑地の整備・維持管理

新規公園の整備・既存公園の維持管理

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
住民一人あたりの公園面積 ２．９４㎡	住民一人あたりの公園面積 ３．２１㎡

※京都府下の平均　７．６７㎡（平成２７年度）

本市は、市域が狭いうえ、約４割が西山に覆われており、自然公園や運動公園などの大規模な公園整備は難しい状況ですが、平成２８年度には２．２ｈａという広大な西代里山公園が完成しました。

今後も市民が憩える公園づくりや管理に取り組んでいきます。

平成２８年５月開園　西代里山公園

③緑の協会と連携した緑化の推進

みどりのサポーター制度の普及

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
みどりのサポーター数 ９６団体	みどりのサポーター数 ９５団体

平成１６年１０月から始まったみどりのサポーター制度は、市内の公園や道路の掃除や植栽などを行うグループを支援する制度です。平成２８年度は６団体の新たな登録がありましたが、５団体から登録の取消しがあった結果、平成２７年度からは１団体増加しました。

緑の協会で登録を行うと、花苗の提供や清掃用具の貸出などの支援が受けられます。「公園が雑草ではなく、草花がいつも咲いている場所にしたい。」「家の近くの道路はいつもきれいにしていたい。」など様々な思いを持って、平成２８年度は１，３５１人のサポーターが活動しました。

（２）環境に配慮した都市の整備

①中心市街地における環境配慮型の都市基盤整備

歩道の透水性舗装や車道の遮熱性舗装の施工

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
長岡京駅前線整備に係る設計に反映	長岡京駅前線第３工区設計に反映

歩道に雨水がたまりにくくするための「透水性舗装」や都市のヒートアイランド現象の抑制につながる車道の「遮熱性舗装」は、平成２５年度に行った長岡京駅前線第３工区（産業文化会館前までの１１１ｍ）の詳細設計に反映し、事業推進に取り組んでいます。

舗装の工事は平成３１年度に完了予定です。

阪急電鉄の高架化の検討

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
まちづくり協議会への運営支援	まちづくり協議会への運営支援

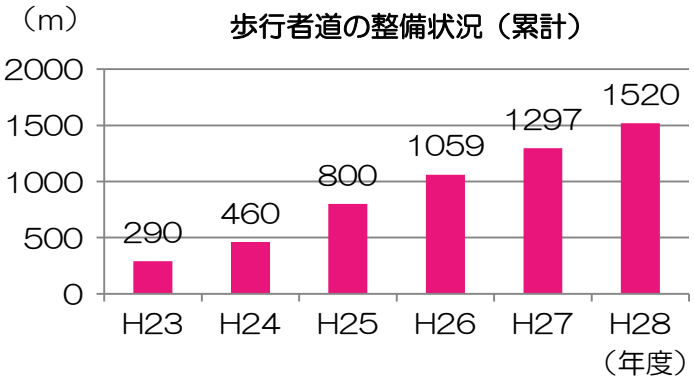
地元住民で設立された「長岡天神駅周辺まちづくり協議会」への運営支援として、勉強会を５回開催しました。それにより、まちづくり協議会において、駅前広場の位置や交通動線等について議論をいただき、基本構想の中間とりまとめが作成されました。

中間とりまとめでは、阪急線路の高架化を前提に検討を継続することとなりました。

②歩行者優先の道路空間整備

歩行者道の整備・電線類地中化の推進

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
２１０m	２２３m



歩道の拡幅整備事業として平成２８年度は、長岡２丁目（８５m）と梅が丘３丁目（１３８m）の整備を行いました。

今後も歩行者が歩きやすいよう整備を行っていきます。

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
長岡京駅前線整備に係る設計に反映	長岡京駅前線第３工区設計に反映

電線共同溝は、平成２５年度に行った長岡京駅前線第３工区の詳細設計に反映し、事業推進に取り組んでいます。電線共同溝工事は平成３１年度に完了予定です。

※電線共同溝工事とは、電線の設置・管理を行う２以上の者の電線を収容するため、道路管理者が道路の地下に設ける施設であり、道路上にある電柱や電力線、電信線を地下に収容することにより快適な歩行空間の確保、景観の向上を図ることを目的としています。

③個性ある景観の保全・形成

「長岡京市景観計画」の内容見直し

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
重点地区の指定及び地域特性に応じた基準の設定	重点地区の指定及び地域特性に応じた基準の審議

本市では、個性ある景観を保全するため、景観法第８条２項に基づき景観計画により市域すべてを「景観計画区域」に指定しています。景観重点地区とは、この「景観計画区域」に指定されている地区で、市長が特に景観形成の施策が必要と認めたところに対し、指定することができるものです。

平成２８年度は、重点地区の指定及び地域特性に応じた基準の設定までは至りませんでしたが、まちづくり審議会において、地域特性に応じた７つの区域と重点地区候補地を想定した上で、それぞれの区域における景観形成の方針や具体的な基準について審議しました。

（３）歴史文化資源の保全・活用

①歴史的名所の活用

神足ふれあい町家の活用

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
入館者数の維持 （現状値：17,975 人）	１８，２５１人

神足ふれあい町家は、西国街道沿いにある江戸時代末期の商家です。風情ある町家建築の建物で、平成１２年に国登録の有形文化財に指定されました。現在は、和室などをイベントスペースとして貸し出しています。入館者は昨年度より増加しています。

こうした歴史的な建物や名所を活用し、多くの人に訪れてもらうことで、長岡京市らしい文化やまちなみを今後も継承し、保全していきます。

②ふるさと資料館の整備

埋蔵文化財センターの啓発事業参加者数

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
参加者数 ３，６００人	参加者数 ２，６５７人

市内に点在する文化財とその周辺環境を保全するためにも、長岡京市全域の文化財と展示施設を「まちなか博物館ネットワーク」として有機的につなぐ中核施設が必要です。蓄積された長岡京跡の発掘調査成果を整理及び研究し、その成果を広く展示、公開する場としての埋蔵文化財センターの今後と（仮称）ふるさと資料館基本構想に基づく整備検討をあわせて行います。

（４）環境美化の推進

①地域の清掃活動の促進

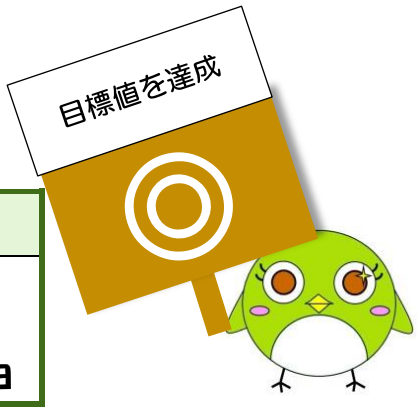
５３０運動参加団体への支援

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
支援継続	１０９団体

５３０（ごみゼロ）運動とは、ごみを拾うことにより捨てない心を養い、散乱するごみの現状を自分たちの問題として考えようという運動です。５月 30 日にちなんで、毎年この時期に、市内事業所や自治体なども参加して行っています。市では、この運動に参加していただく団体に、ごみ袋や火ばさみなどを貸し出して、支援しています。平成２８年度は１１，９６８人の参加がありました。

②散乱ごみのない美しいまちづくり

美化パトロール・ワンワンパトロールの実施



平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
美化パトロール実施回数 １６回/月　２回/日 ワンワンパトロール　２回/日	美化パトロール実施回数 １８回/月　２回/日 ワンワンパトロール　２回/日

ポイ捨ての指導・啓発を行ったり、散乱ごみを回収したりするなどのパトロールを行っています。回収したごみの量は、たばこ２３，６３５本、缶・ビン・ペットボトル１，１１８本でした。

（５）適切な環境管理

①環境調査の推進

各種環境調査の実施・小畑川、小泉川の水質保全

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
基準超過件数の減少 （現状値：１０件）	基準超過件数１１件
小畑川・小泉川 透視度：３０㎝以上 ＢＯＤ：２mg/ℓ以下 ＰＨ：6.5~8.5の維持	小畑川・小泉川 透視度：３０㎝以上 ＢＯＤ：0.7mg/ℓ・0.5mg/ℓ以下 ＰＨ：8.0・7.9

市では、変化する地域の生活環境を継続的に把握するため、独自に河川水質、自動車騒音、環境騒音、窒素酸化物、農業用井戸水の調査を行っています。平成２８年度の調査では、２１１項目中１１件で基準値を超過しました。毎年１０件前後の基準超過が見られますが、いずれも一時的なもので、特に異常は見られませんでした。

②環境保全に係る啓発

生活環境向上のための啓発

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
広報紙・市ホームページへの 生活環境マナー啓発記事の掲載	広報紙・市ホームページへの 生活環境マナー啓発記事の掲載

広報長岡京に啓発記事を２回掲載するとともに即時的な内容のものはホームページに掲載し、啓発に努めています。

5．協働・環境学習・エコアクションの推進

環境ボランティア養成講座の延べ受講者数

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
受講者数延べ７０人	受講者数延べ６３人

（１）市民活動サポート機能の拡充

①市民活動サポートセンター機能の拡充

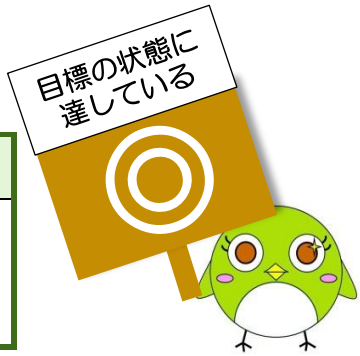
市民活動サポートセンターの管理運営

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
市民活動サポートセンター 団体登録数　１３６団体 ネットワークに関する相談件数 延べ５７件	市民活動サポートセンター 団体登録数　１４１団体 ネットワークに関する相談件数 相談件数　延べ　５７件

市民活動サポートセンターは、社会貢献活動を行う市民活動の拠点施設です。市民活動についての相談・アドバイスや、団体同士や団体と市民のネットワークづくりの支援を行っています。

②各種団体・サークル等活動の支援

環境団体・サークル等の担い手発掘に向けての支援



平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
ステップアップ・チャレンジ 会議の運営/イベントを通した 活動紹介	ステップアップ・チャレンジ 会議の運営/イベントを通した 活動紹介

平成２６年度から本格的に始動したステップアップ・チャレンジ会議は環境検定チームと省エネ推進チームが毎月運営会議を開催し、環境意識の高揚、省エネの普及啓発に取り組みました。また環境フェアや京都環境フェスティバルへの出展を通して、活動の紹介・メンバーの募集を今後も引き続き行うとともに、ステップアップ・チャレンジ事業の推進を行い、新たな担い手を発掘する機会を作り、活動の裾野を広げていきます。

③中間支援組織母体の立ち上げに向けたプラットフォームづくり

団体間連携の促進

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
交流会等の開催	市民活動応援補助金活用による 環境団体の連携

平成２８年度のテーマとして採用された市民活動応援補助金「間伐竹材の有効活用の推進」に環境の都づくり会議とＮＰＯ法人竹の学校が合同で提案され、採択されました。

この補助金を活用して、竹搬出用のトラックを購入されたことで、作業の効率化が図られ、団体間の連携が以前より強まっています。

（２）環境を担う人づくり・人結び

①環境活動を担う人づくり

地域の環境活動を担う人材養成講習会・研修会の実施

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
受講者数延べ７０人	受講者数延べ６３人

平成２９年３月に西山森林整備推進協議会主催で、森林ボランティア養成講座（受講者２５人）を実施しました。当日は小学生から７０代までの幅広い世代の方が参加し、西山の取り組みについての説明と安全面についての講習の後、竹林に入って整備作業を体験しました。実習にあたっては、市内の２つのボランティア団体にもご協力いただき、団体紹介やメンバー募集、意見交換などの交流を図り、参加者がボランティアとして一歩を踏み出すための工夫を心がけました。

＜教員向け＞西山の自然を活用した環境学習のオリエンテーションの実施

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
延べ１０４人	延べ１０９人

西山での研修の様子

小学校で西山をフィールドとした環境教育を積極的に行ってもらうため、新任の教員や長岡京市に初めて着任した教員向けにオリエンテーションを実施しています。平成２４年度からはじめたオリエンテーションは、各小学校に周知されたこともあり、受講者数も定着してきました。（H28年度：３４人）実地研修では、西山で活動しているボランティア団体の方に案内や説明のご協力をいただき、教員とボランティア団体との連携を図るとともに、環境学習や遠足に活かせる様、より実践的な研修を目指しています。講習内容は、神足小学校による里山体験学習の取組み発表、西山の自然観察等についてでした。

②グリーンコンシューマー活動の支援

グリーンコンシューマー活動の支援

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
啓発方法の企画・検討	啓発方法の検討

市役所では、文具類や紙類などの１１７品目をグリーン調達品目として、グリーン購入を推進しており、平成２８年度のグリーン購入比率は定着しています。

市民の方への啓発方法として、環境フェアなどの環境イベントで来場者にエコストアで使用できるクーポンを配布する案がでました。実施には、エコストアの活動状況や対応の可否など検証していく必要があります。今後も啓発方法等を検討し、実施に向けて取り組んでいきます。

③環境地域通貨の導入

エコストアを活用した地域通貨の検討

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
企画検討・試行実施	企画検討

環境地域通貨とは、環境負荷を減らすために地域内で循環し、何らかの価値を持ち流通する通貨をさします。市民の方への啓発方法として、環境フェアなどの環境イベントで来場者にエコストアで使用できるクーポンを配布する案がでました。実施には、エコストアの活動状況や対応の可否などを検証していく必要があります。今後も啓発方法を検討し、実施に向けて取り組んでいきます。

また市民環境団体が環境イベント等でリユース品を安価で販売し、市へ寄付する取り組みを平成２５年度から実施しており、平成２８年度は８１，９３０円の売上げがありました。

（３）環境学習の推進

①環境学習の機会づくり

小中学校の環境学習の充実

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
各学年指導時間数 小学校２０時間以上 中学校５時間以上	各学年指導時間数 小学校１８時間 中学校１１時間

環境学習は、すべての小中学校で実践されており、各学校で行われている環境に関する学習時間を学年と学校数で割りました。また授業時間中だけでなく、休み時間や放課後などの取り組みも充実してきています。学校により実践内容に違いがありますが、学校農園をはじめ、井戸や生ごみ堆肥化、ホタルの生態とふ化、太陽光パネルといった各学校の特色を活用した学習が行われています。中学校でも教科書を中心とした学習のほか、長岡京市の特色である「西山」や「竹」についての学習を行っています。

環境学習会等の開催回数・参加者数

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
開催回数　　９回 参加者数　２８５人	開催回数　　８回 参加者数　２８９人

出前講座（３回）・環境講演会・スターウォッチング（夏/冬）・バードウォッチングを実施しました。また３回目の開催となる「長岡京環境検定」は、５８名が受検しました。今後も、より身近に参加できる環境学習の機会づくりに取り組んでいきます。

バードウォッチング（カワセミ）

子どもエコ教室・環境教育ミーティング、放課後子ども教室等の実施

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
参加者数３８０人/年	参加者数４０５人/年

公民館で主催している環境教育関連２事業のうち、「子どもエコ教室」では、環境保全について考えるきっかけを提供するため、市内小学生を対象として３回実施しました。また環境教育ミーティングは、環境の都づくり会議との共催で２か月に１回実施しました。

子どもエコ教室

またすくすく教室（放課後子ども教室）では、環境の都づくり会議や富士通㈱の方などを講師に招き１２回開催しました。

すくすく教室

②西山を活用した自然体験学習の推進

西山ファミリー環境探検隊の実施

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
４回・８０人参加	３回・５２人参加

西山ファミリー環境探検隊は、西山をフィールドにして、家族で自然を楽しんでもらう事業です。平成 25 年度から京都府立大学の学生サークルとの連携を始め、ボランティアや大学生の活躍によって活動自体が活気づき、徐々に参加人数も増えてきました。平成２８年度は第４回目が雨で中止になったため、３回の開催となりました。今後も、身近にある西山の魅力を知ってもらうとともに、家族や参加者同士の交流も深められるようなプログラムを企画していきます。

西山ファミリー環境探検隊

西山を活用した環境教育の実施

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
小学校１０校	小学校１０校

春の遠足では、１０小学校全校が西山周辺や西山キャンプ場へ自然観察などに行きました。遠足の際には、西山で活動するボランティア団体が同行し、児童への説明やアドバイスなどの支援を行っています。

薪ストーブを設置している神足小学校では、将来の森づくりに向けた新しい環境教育プログラムとして、西山で拾ってきたドングリを学校で苗木に育て、その苗木を３年生が西山に植樹するという実践的な学習に取り組んでいます。また冬には拾ってきた柴や薪を用いて、薪ストーブの火入れ式を行っています。

ドングリの苗の植樹

③環境啓発型イベントの開催、イベントへの出展

環境フェア・長岡京竹あそびなどのイベントの実施

平成２８年度の目標	平成２８年度の結果
参加者数延べ約９，０００人／年	参加者数延べ約９，８６３人

平成２８年度は、６月に「ホタル観賞の夕べ」、８月には「打ち水大作戦」、１０月には放置竹林の啓発を行う「長岡京竹あそび」、１１月には「環境フェア」を開催しています。いずれも事業所や環境活動団体の皆さんと一緒に市が主催や協力をして実施しています。自然環境の大切さや身近な環境への取り組みの必要性を啓発し、周知するためのイベントです。

長岡京市第二期環境基本計画進捗状況について

≪行政施策目標≫

	目標内容	H３４目標値	H２８目標	H２８結果	評価	報告書頁
施策１	再生可能エネルギーの世帯当たりの普及率	５%以上	３．３５%以上	３．６４%	◎	P．４
施策２	一人一日当たりの収集ごみ量	５２３ｇ以下	５４１．７５ｇ以下	５３０．９７ｇ	◎	P．１３
施策３	西山の森林のＣＯ２吸収量	１，３００t-CO_2以上	１，３９６t-CO_2以上	１，４３９t-CO_2	◎	P．１８
施策４	住民一人あたりの公園面積	公園面積の増加	２．９４㎡	３．２１㎡	◎	P．２３／２４
施策５	環境ボランティア受講者数	受講者数の増加	受講者数延べ７０人	受講者数延べ６３人	○	P．２９／３０

≪ステップアップ・チャレンジ目標≫

目標内容	H３４目標	H２８目標	H２８結果	評価	報告書頁
再生可能エネルギーの世帯当たりの普及率	５%以上	３．３５%以上	３．６４%	◎	P．４
西山の森林整備面積 西山の森林のＣＯ２吸収量	２５０ｈａ以上 １，３００ｔ-CO2以上	２８０ｈａ １，３９６t-CO_2以上	２８２ｈａ １，４３９t-CO_2	◎	P．１８
環境イベント参加者数	延べ８０，０００人以上	延べ９，０００人 （累計３３，０００人）	延べ９，８６３人 （累計３６，９１３人）	◎	P．３３

長岡京市生活環境審議会の評価・意見および市の考え方

長岡京市では、本計画を策定および進捗管理を行う際に、意見を求めるため「長岡京市生活環境審議会」を設置しています。この審議会には、市民や事業者、諸団体と行政の委員が参加し、ＰＤＣＡサイクル（計画し、実行し、チェックし、改善する仕組み）で計画の推進を図っています。本計画を取り組む主体は行政ですが、それを行政自身で評価するのではなく、多様な主体が加わって評価します。

これにより行政以外の視点でチェックをし、取組みを改善していくことができます。この章では、審議会委員からの評価と意見をまとめるとともに、市の考え方について報告します。

評価の目安について

委員意見（小幡副会長）
定性の目標の中の「△」の表現がわかりづらいため、変更してはどうか。
市の考え方
本報告書においてはＰ．３の＜評価の目安＞で評価を実施しているため、次回評価までに表現方法を検討して平成２９年度進捗報告書から変更します。

先進地視察について

委員意見（江川委員）
先進地視察として淡路市を視察された内容を報告してほしい。
市の考え方
淡路市では竹チップを温浴施設に活用されており視察をしてきました。材料となる竹の集材作業には民間の力が必要になります。また竹チップを活用する上で、重油よりも燃料費が安く済む必要があります。その点を重視して取組みについてのヒアリングを実施しました。 本市では庁舎の建替え等が検討されており、竹チップをボイラーの燃料として活用できないかということを検討しています。また既存の温浴施設の燃料を竹チップで代替できないかということも併せて検討しています。導入にあたっては、竹の賦存量を把握した上でもっとも適した方法を検討していきます。

市庁舎の建替えについて

委員意見（片山委員、木原委員、奥谷委員）
①審議会委員として環境に特化した意見を出し新庁舎に反映させていきたい。 ②環境負荷が低くパリ協定に恥じない、各市町村が視察に訪れるような庁舎にしてほしい。 ③長岡京市でも庁舎に竹材を使用してはどうか。竹材を建築材として使用することで、長岡京市の竹をアピールできると思うので、庁舎建築にあたって竹を使用することを検討してはどうか。
市の考え方
環境部局として環境負荷の低い庁舎の調査研究を行い、新庁舎に反映していきたいと考えています。審議会委員のみなさまのお知恵も借りながら進めていきたいと考えています。

環境地域通貨の導入について

委員意見（江川委員）
環境地域通貨の目標を削除してはどうか。
市の考え方
この目標は第二期環境基本計画で定めている内容になっているため、実施計画から削除することは難しい。本計画も策定してから５年経ち折り返し地点に向かっています。第三期環境基本計画を策定するにあたり、今後どのように展開していくかを委員のみなさまと検討していきたいと考えています。

エコストア

委員意見（奥谷委員）
地域住民や事業者の取組みになっている。地産地消や事業所を応援していく方がいいのではないか。
市の考え方
昨年にパリ協定が発効され、排出量実質ゼロを目指していかがなければなりません。そのため、ある事業所だけが取り組んでいたらいいというわけではありません。委員意見にもあるように全体が取り組める内容であったり、事業所が取り組むことで消費者が環境負荷の低い商品を購入できるようなやり方を検討していく必要があると思います。